

自然環境整備計画事後評価

都道府県名	三重県		個別地域名	三重県（伊勢志摩国立公園、吉野熊野国立公園）			評価年度	R4 年度		
事業実施期間	平成 28 年度～令和 2 年度			事業費	393,750 千円		（うち国費 196,875 千円）			
事業の実施内容	伊勢志摩国立公園、吉野熊野国立公園内の園地、近畿自然歩道等において老朽化した施設の再整備を実施し、災害等により被災した危険箇所の復旧するとともに、公衆便所の洋式化・バリアフリー化等を進め、自然公園施設の利用促進を図った。									
目標の達成状況	整備計画策定時に設定した目標に対する事業の効果の発現状況	老朽化や災害での被災等により、危険な状態となっていた自然公園施設を再整備することで、自然公園を訪れる利用者がより安全に散歩することができるようになった。また、公衆便所の洋式化やバリアフリー化を進めることで、身体的に不自由のある人にも安心して自然公園を利用して頂けるようになったほか、案内看板を最新の情報に更新するとともに多言語化することで、外国人利用客の利用を促進した。しかし、令和2年度は新型コロナウイルスの影響を大きく受けたため、総じて目標値の達成には至らなかった。								
		目標を定量化する指標の達成状況	当初の指標	指 標	単 位	定 義	従前値	目標値	達成値	達成値の評価
							基準年度	目標年度	達成年度	
		公園利用者の満足度	%	人と自然のふれあいの場の整備状況に関する利用者の満足度	69.9%	80.0%	79.3%	基準年度より満足度は上がったものの、達成値が目標値を下回る結果となった。トイレや休憩所など老朽化した施設がまだ多く、公園利用者の期待に応えられていない状況であるため、引き続き整備を進める必要がある。		
					H27	R2	R2			
		公園の利用者数	人/年	伊勢志摩国立公園の利用者数	838万人	850万人	576万人	新型コロナウイルスの影響を大きく受け、達成値が目標値を下回る結果となった。今後は、従来の施設の老朽化対策等に加え、新型コロナウイルス対策としてトイレの洋式化なども積極的に行い、公園利用者の増加を図りたい。		
					H27	R2	R2			
		公園の外国人利用者数	人/年	吉野熊野国立公園の利用者数	114万人	120万人	92万人	新型コロナウイルスの影響を大きく受け、達成値が目標値を下回る結果となった。今後は、従来の施設の老朽化対策等に加え、新型コロナウイルス対策としてトイレの洋式化なども積極的に行い、公園利用者の増加を図りたい。		
					H27	R2	R2			
		公園の外国人利用者数	人/年	伊勢志摩国立公園の外国人利用者数	3.3万人	10万人	－(7.1万人)	令和2年度より新型コロナウイルスの影響により、観光庁が実施している訪日外国人が中止されたため、令和2年度の達成値は算出できなかった。なお、令和元年度に関しては基準年度の2倍以上に増加したものの、目標値は下回っているため、引き続き多言語看板の設置やトイレの洋式化などを進め、外国人利用者の増加を図る必要がある。		
H27	R2				R2 (R1)					
その他の指標										
整備に伴う取り組みの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○伊勢志摩国立公園（鶺倉園地整備事業：1箇所、登茂山集団施設地区整備事業：2箇所、岩倉園地・築上園地整備事業：1箇所、音無山園地整備事業：2箇所、安乗崎園地整備事業：1箇所、箱田山園地整備事業：2箇所、近畿自然歩道整備事業：6箇所） ○吉野熊野国立公園（鬼ヶ城園地整備事業：1箇所、楯ヶ崎園地整備事業：1箇所、阿田和園地整備事業：1箇所） 									
今後の取り組み	引き続き、自然とのふれあいを促進し、自然への意識向上を図るため、自然環境保全に考慮しつつ施設の魅力を高め、安全で快適に利用できる施設整備を行うとともに、新型コロナウイルス対策を進め、利用者への適確な情報の提供を進めていく。									